



○りんご（7/15～8/15）

管内のりんごの肥大は、7月1日現在でふじが40.8ミリと昨年より2日遅く、平年より3日ほど早い生育となっております。

仕上げ摘果を終えた園地では、再度見直し摘果を行い、良品生産に向けて適正着果に努めましょう。成らせすぎは翌年の花芽形成を悪くさせるばかりでなく、隔年結果

管内のりんご肥大状況（7月1日調査）

	湯口	紙漕沢	相馬	前年比	平年比
つがる	49.9	48.1	50.8	110.5%	120.7%
王林	47.9	44.5	46.8	110.7%	121.8%
ふじ	46.9	44.4	43.4	112.3%	121.7%

※単位は（mm）平年値は過去10年間の平均値

の原因ともなります。

○徒長枝（バヤ）の整理や支柱入れを行いましょう

枝の重なりを解消すると農薬散布時に薬剤の通りが良くなるため、ワタムシやカイガラムシ、ハダニなどの害虫の発生を減らすことにもつながります。また、日光を樹冠内部にまで当て、葉の光合成活動を促すことにもなりますのでこまめに行ってください。ただし、直射日光がきつく気温が高い時に行くと果面ヤケの原因になるので注意して下さい。

○落果防止剤の使い方

ストッポール液剤は葉から吸収されて効果を出す薬剤ですので、葉に十分薬剤がかかるようにして散布して下さい。葉摘みは散布後4～5日後から行いましょう。ただし、つがるに散布する場合、高温時（28℃以上）に散布すると新梢の先端部分に薬害が発生する場合がありますので注意して下さい。

○収穫前日数に注意しましょう

極早生種や早生種のりんごを栽培している場合には、散布する薬剤の収穫前基準に注意が必要です。例えば、9月1日につがるを収穫する場合、収穫前45日の薬剤は7月15日以降の散布ができなくなります。恋空や着色優良系統のつがる・きあつなど、8月中に収穫できる品種がある方は特に注意して下さい。

※「恋空」の葉摘みは要注意

極早生品種「恋空」は葉を摘み過ぎるとヤケの原因だけではなく、果実の軟質化や着色の悪化にもつながります。

葉摘みを行う場合は、必要以上に葉を摘まないように気をつけましょう。

○水稻

幼穂形成期を終え、穂ばらみ期に入ります。今後は平均気温で20℃以下となる場合には15センチ以上の深水で管理し、幼穂の保温に努めて下さい。高温時には4センチ程度の浅水とし、高温が続く場合には、時々水の入れ替えをし、根の老化防止に努めて下さい。また、畦畔の草刈りはカメムシ被害防止のため、7月末で終了して下さい。

散布計画

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
10	500%	7月下旬	ダイパワーカルシウム剤	1000倍	○カイガラムシの発生が多い園地では胴木洗いを実施する。（アップロードの年間使用回数は2回まで） ○ハダニの発生に注意。
11	500%	8月上・中旬	アリエッティCカルシウム剤	800倍	○炭そ病の発生が多い園地ではベフラン液剤の使用を避ける。 ○極早生・早生種がある場合には収穫前日数に注意する。

りんご病害虫防除暦（第10回目～11回目）※生態の早まりにより散布時期に若干のズレがあります。

直売所「林檎の森」

直売所 長見さくら



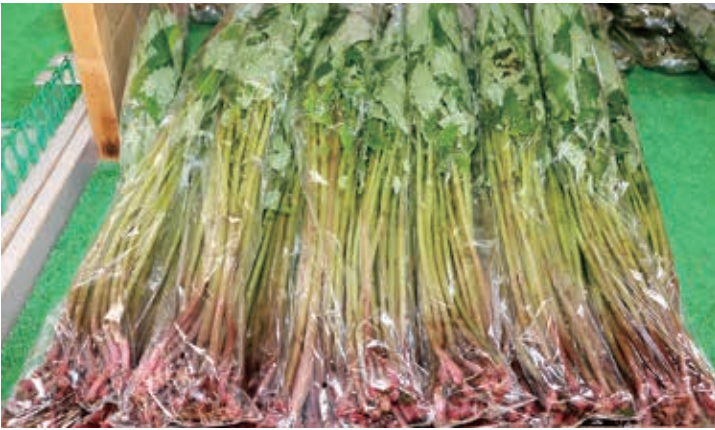
いつも直売所「林檎の森」をご利用いただきありがとうございます。

今年もさくらんぼの時期がやって来ようとしています。当初、6月26日を予定していた店頭の特売日もあるかもしれませんが、7月上旬から中旬を予定しております。店内で販売中の会員の方が出しているさくらんぼですが、まだまだ始めのためそこまで数は入ってきておりませんが、これからきれいな赤色がどんどん出てくると思われまます。是非お試しあれ！

山菜は、竹の子、ワラビなどもうあまり入ってこなくなりましたが、みずは最盛期を向かえているのか山のように積まれていてもなくなる毎日です。発送も承っておりますので、この機会に親戚や友人に送ってみてはいかがでしょうか。

さて、本格的に始まってきている農作業のお供に食堂手作りの惣菜や会員の方の美味しいおもち、

お赤飯、惣菜などはいかがでしょうか。最近は暑くなってきましたので、ソフトやシェークもオススメです。地物の野菜もたくさん出ております、スタッフ一同ご来店をお待ちしているので、是非立ち寄り下さい。



今が旬の「みず」が大量に入荷している

いきいき女性部通信

農業振興課 女性部 堀井裕子



6月12日、『女性のための仕上げ摘果講習会』が開催されました。

講師は五所地区の田沢俊明氏が務め、昨年は黒星病が多く目立っていました。今年は降水量が少ないので、感染に必要とされる「濡れ時間」が8〜10時間を満たす日がほとんど見られなかったことに加え、薬剤散布が適正量・適正速度散布を順守し、降雨前散布も行われたことから、「発病はごく小発生にとどまっている。」と聞き、参加者の顔が明るくなりました。

今年も16名が参加し、女性部員だけでなく若手の参加者やアップルヘルパーさんと一緒にいらした方などいろいろ参加者に恵まれました。

講習会では、「今年中心果が少ないが、こうした場合はどうしたらいいのか?」「や、りんごを見ながら」「この実は、落としてもいいの?」「など高品質のりんごを目指し意見や質問をかわらせていました。

長年作業をしていますが、知らない事やわからない事などを聞けずにいる時もあります。少しでも足を運んでもらえて聞きやすい環境の講習会を目指して、これからも開催していきたいと思えます。

少しでも多くの女性や生産者が品質向上と大玉生産に向けて取り組めるようになれば嬉しいです。



実技を交えて講習する田沢俊明さん